

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1501-1

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信 (1 / 3)
-----	-------------------------------

事業概要	1) 博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る 博物館のホームページ上に設けた情報アーカイブを運用し、博物館の所蔵する文化財や、その調査研究に関する情報を積極的に発信し、さらに内容の充実につとめる。
------	--

担当者	担当部課	事業部情報課	事業責任者	情報課長 高橋裕次
-----	------	--------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報アーカイブ・ウェブサイト」を運用し、研究員の調査研究成果の一部を公開するとともに、科研の研究成果公開促進費によるデータベースの公開につとめた。 ・収蔵品の画像検索については、「東京国立博物館ウェブサイト」において機能を改善した上で運用を開始した。また、学芸業務支援の目的で構築中の「列品管理プロトタイプデータベース」についても、同ウェブサイトにおいて運用を開始し、随時その機能の充実につとめた。
-------	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報アーカイブ・ウェブサイトによって、調査研究に関する情報を公開していくための下地作りが出来上がり、一部公開を始めた。 ・さらに情報の公開を促進するためには、これまでに発信している博物館の収蔵品に関する情報についても、東京国立博物館ウェブサイトあるいは、情報アーカイブ・ウェブサイトのどちらがより効果的であるかなど、その内容に応じて個別に検討する必要があると思われる。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1501-2

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信 (2/3)
-----	-----------------------------

事業概要	2) 国際的な講演・研究集会の開催 海外の研究者による公開講座「博物館交流セミナー」を開催する。
------	---

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	教育講座室長 白井克也
-----	------	-------	-------	-------------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外の研究者による公開講座「博物館交流セミナー」を2回開催した。 アルベルト・ルツ博士 (スイス・リートベルク美術館長) 「リートベルク美術館における日本美術展示」 10月10日 (水) 参加者37名 ジョン・T・テラモト氏 (インディアナポリス美術館主任研究員) 木下史青 (当館デザイン室長) 「展示デザインのボキャブラリー アメリカで日本美術を語る」 11月20日 (火) 参加者61名
-------	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国博物館との人的交流を生かした博物館交流セミナーを新設し、館々交流の成果を来館者に還元するとともに、博物の事業への理解を促した。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	実施回数	2回	—	—
	参加者数	98名	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1501-3

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信 (3/3)
-----	-----------------------------

事業概要	3) 紀要・図版目録等の刊行 4) 修理報告書の刊行 5) 法隆寺献納宝物特別調査概報の刊行 6) 研究誌「MUSEUM」(年6回)の刊行 研究員の調査研究成果、収蔵品の紹介等の文字情報と新規に撮影した作品の魅力を伝える図版を掲載した、博物館の情報発信としての出版物の刊行
------	--

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	出版企画室長 浅見龍介
-----	------	-------	-------	-------------

実績・成果	以下の出版物を刊行した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京国立博物館研究誌『MUSEUM』607-612号 ・ 『東京国立博物館修理報告書Ⅷ』 ・ 『東京国立博物館紀要43号』 ・ 『法隆寺献納宝物特別調査概報XXⅧ』 ・ 寄贈品図録『広田コレクション 鑑賞陶器編』 ・ 寄贈品図録『山本達郎氏寄贈品目録 アジアの石彫・絵画』 ・ 特集陳列「黒田記念館 黒田清輝の作品Ⅰ」「黒田記念館 黒田清輝の作品Ⅱ」リーフレット ・ 特集陳列「高島菊次郎氏寄贈中国書画 槐安居コレクション」リーフレット ・ 特集陳列「海外の日本美術品の修復」リーフレット ・ 特集陳列「西アジアのガラス器」リーフレット ・ 特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット 	
-------	---	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『MUSEUM』607-612号掲載論文28本のうち20本が当館研究員の執筆であり、研究員の研究成果の発信を着実に積み重ねることができた。 ・ 611号は『『みどりのライオン』の開設と博物館教育』という特集号を組み、当館の教育普及事業の紹介と今後の方向を示した充実した内容になった。 ・ 『紀要』は木下史青「東京帝室博物館・復興本館の昼光照明計画に関する館史資料について」と松嶋雅人「長谷川等伯一信春時代における諸問題」を掲載。木下論文は当館ひいては日本の博物館の歴史を掘り起こすもの。松嶋論文は、長谷川等伯の能登在住時代の画業をまとめたもの。いずれも学界に寄与するところが大きい。 ・ 『法隆寺概報』は国宝聖徳太子絵伝の1・2面の細部写真と詳細な場面解説、江戸時代の模本写真等を掲載し、従来図様が明瞭でなかった絵伝の画像を示す画期的な報告で、今後の聖徳太子研究の基礎資料となるだろう。 ・ 原稿の遅延等により出版計画の変更をせざるを得ない状況も一部にあった。定期刊行物の出版の時期をずらすなど出版計画の見直しを図り円滑な出版を目指す。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	出版件数	11件	—	—
	研究誌『MUSEUM』の発行	6回	6回	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 京都国立博物館 処理番号 1502

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信
-----	-----------------------

事業概要	調査研究成果の発信
------	-----------

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長 森田 稔
-----	------	-----	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「平安仏教とその造形」に関しては、シンポジウム「仏師康尚の時代」を開催(5/14)し、120名の参加者を得て、活発な討論がなされた。また、報告書を刊行した。 ・大東急記念文庫所蔵の「曼荼羅集 玄証本」を採録・翻刻した「図像蒐成X I」を刊行 ・国際シンポジウム「狩野永徳研究の現状と課題」を11月3日に国立京都国際会館にて開催し、海外からのパネリスト2名を含む研究者4名の発表があり、285名の参加者を得て活発な討論がなされ、盛況を博した。 ・研究紀要「学叢」第29号を刊行した。 ・「平成十二年度 京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書 3」を刊行した。 ・社寺調査報告書は刊行準備中。 	 <p>国際シンポジウム 「狩野永徳研究の現状と課題」</p>
-------	---	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	当館における調査研究活動について、その成果を各種刊行物の発行、シンポジウムの開催等により、広く発信できた。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価

中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。
----------------	---------------

【書式A】

施設名 奈良国立博物館

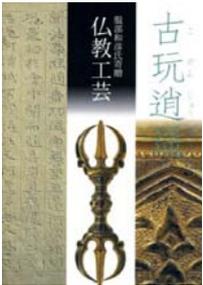
処理番号 1503

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信
-----	-----------------------

事業概要	調査研究成果を展覧会目録や研究紀要の刊行、シンポジウムの開催やインターネットを活用して広く発信する。
------	--

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生
-----	------	--------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会目録の刊行 (計7冊) 『神仏習合—かみとほとけが織りなす信仰と美』(特別展図録) 『古玩逍遙—服部和彦氏寄贈仏教工芸』(特別陳列図録) 『仏さまの彩り』(親と子のギャラリー図録) 『美麗 院政期の絵画』(特別展図録) 『第59回正倉院展』(特別展図録) 『The 59th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録) 『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録) ・ 展覧会・展示リーフレットの刊行 「文化庁購入文化財展 新たな国民のたから」 「新指定 平城宮の木簡」 「文化財の燻蒸装置」 ※以上刊行物は全て作品解説付き、展覧会担当研究員の総論や各論を掲載 ・ 研究集会・シンポジウムの開催 国際研究集会「東アジアの墓葬と画像」(7月21日) 正倉院学術シンポジウム「守る・伝える 正倉院宝物」(11月11日) ・ ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開 ・ 文化財保存修理所で修理した文化財を写真パネル等で展示 ・ 読売新聞「鹿園観照—奈良国立博物館で見る名宝」で、展示作品の定期的な紹介 		
			古玩逍遙図録

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別展・特別陳列等の開催に伴って展覧会目録等を刊行し、作品解説を付すにとどまらず、展覧会の企画・開催によって得た最新の調査研究成果を発表することによって、充実した内容であるとの評価を多数得た。 ・ 親と子のギャラリー「仏さまの彩り」図録では、広告掲載の試みを初めて行って低価格による販売(200円)を実現し、幅広い読者を獲得することができた。 ・ 国際研究集会及び正倉院学術シンポジウムでは、国内外の第一線で活躍する研究者を招聘して研究発表・討論を一般公開で行い、文化財に関する調査研究の拠点としての当館の機能を、広く示すことができた。 ・ 新聞紙上に展示品・所蔵品についての解説や研究成果の発表を行い、当館の活動を広く一般にアピールできた。 	
--------------------------	--	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
		—	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

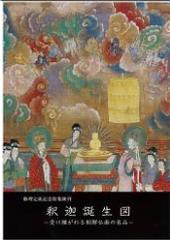
【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1504

中項目 3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名 (1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

事業概要 ① 研究紀要「東風西風」の刊行
 ② 国際的な講演・研究集会の開催
 ③ 文化財修理報告書刊行及び教育普及事業活用のための資料整理等
 ④ 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

担当者	担当部課	文化財課 博物館科学課 交流課	事業責任者	研究員 東昇 保存修復室長 藤田勲夫 事務主査 元永行英
-----	------	-----------------------	-------	------------------------------------

実績・成果	①研究紀要「東風西風 2007(第3号)」を刊行した。 ②「第2回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム—文化をつたえる紙の路—」を国宝修理装飾師連盟と主催し、中国22人、韓国28人、タイ3人、英2人、米1人、国内260人、計316人の参加を得、同時に修復施設内にてワークショップも実施し、中国韓国の修理技術者の研修を実施した。日中韓の修理技術者、研究者が一同に会し紙文化財の修理についての理解と研鑽を深めた。 また、学術文化交流協定締結を記念した国際博物館シンポジウムや締結館の館長等を招へいして会議を開催した。 ③修理完成記念特集陳列「釈迦誕生図」 ④地域の大学と連携し保存修復諸室を活用し、国宝修理装飾師連盟の協力を得て短期インターン研修を実施した。保存修復活動に関連する映像記録を作成しボランティア研修や一般講座への活用をはかった。 ⑤学術文化交流協定を締結している、南京博物院（中国）・国立扶餘博物館（韓国）・国立公州博物館（韓国）から研究者を招へいして、日本・中国・韓国 学術文化交流協定締結記念国際シンポジウム「百済と古代東アジアの国際交流」を開催した（参加者数270人）。 ⑥学術文化交流協定締結記念国際シンポジウムの開催に併せて、国立扶餘博物館長・国立公州博物館長・南京博物院考古研究所副所長を招へいして会議を開催し、協定を踏まえた交流促進を図った。	 釈迦誕生図 図録表紙	 日本・中国・韓国 学術文化交流協定 締結記念国際シンポジウム
-------	---	---	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 東アジア紙文化財保存修理シンポジウムは国内外から大変多くの専門家が集い、充実した内容により大きな成果を得ることができ、紙文化財についての保存修理において、ナショナルセンターとしての役割を果たすことができた。 「アジア民俗造形学会シンポジウム」「東アジア紙文化財保存修復シンポジウム」「朝鮮通信使400年記念国際シンポジウム」を開催してナショナルセンターとしての活動を推進した。 修理資料を特集陳列として公開し、図録を公刊することができた。 各地の博物館・文化財保存機関からの調査依頼を受けて、科学的調査に関する10件の調査を実施した。その結果、西日本地域の博物館活動全体の活性化に寄与することができた。 保存修復活動の一環として、「南蛮屏風」を高精細大型スキャナで撮影し、高精細画像を4000本シアターで公開することによって教育普及活動に反映させた。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	国際シンポジウム(参加者)	586人	—	—
	修復活動に関連する映像記録	3件	—	—
	主な国際シンポジウムの開催	4回	—	—
	学術交流に基づく会議	1回	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与			
事業名	(2) 海外研究者の招聘			
事業概要	海外の主要博物館・美術館との連携強化と積極的な交流により、日本の伝統文化の国内外における理解促進と普及につとめ、またナショナルセンターとして、博物館業務についての海外先進事例の集積と普及を行う。			
担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美
実績・成果	<p>1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進した。ヨーロッパ、北米、中国、韓国より計 10 名の研究者を招へいし、展覧会事業の推進および学術交流を行った。</p> <p>2) 外国人研究員・外国人研修生 2 名を受け入れた。 韓国 国立中央博物館より研究員 1 名を受け入れた (19 年 4 月 1 日～12 月 30 日)。ニュージーランド ウェリントン・ヴィクトリア大学より研修生 1 名を受け入れた (20 年 1 月～2 月)</p> <p>3) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣した。 当館研究員延べ 22 名をヨーロッパ、北米、インド、中国、韓国へ派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> これらの交流活動により、欧米の主要博物館との連携を構築、強化し、また当館収蔵品とその保存・活用についての意見交換を行うことができた。また、アジア国立博物館協会設立に参加し、アジア全体の主要機関との連携の基礎を築いた。 さらに、長年懸案となっていた中国の上海博物館との定期学術交流についての協約書を締結することができ、来年度より定期的かつ計画的な学術交流をより安定した形で進めることとなった。 			
				<p>アジア国立博物館協会理事会 (於：韓国国立中央博物館)</p>
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米およびアジア(特に東アジア)の主要館との連携は順調に強化されている。 ・定期学術交流として、中国・上海博物館が加わり、韓国の国立中央博物館とともに、アジアにおけるわが国の研究交流の基点となることが期待される。 ・来年度以降に、ヨーロッパ(ロシア等)、アメリカで所蔵品による展覧会を開催することが決定しており、準備も具体化している。こうした展覧会は、日本の伝統文化普及に資するものとして重要であり、開催地での日本美術への関心が高められることができると思われる。 ・招へい者によるセミナーを 3 回開催し、特に展示デザインと収蔵品活用について海外での先進事例を研究者および専門家に紹介し、各分野での研究推進に寄与した。また、保存分野においても専門家の招へいにより、特に考古分野の収蔵品保存・修理についての新知見を得ることができた。 ・今後、予算および人員が充たされれば、アジアのより広い範囲および南米等の地域での日本文化普及事業、あるいは、各国の博物館職員を対象として博物館における展示技術、保存修復および教育普及等収蔵品の保存と活用分野における研究会／研修の開催が検討課題となる。 			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	海外研究者の招へい	10 人	7 人程度	A
	海外への研究者派遣	22 人	7 人程度	A
	外国人研究員・外国人研修生の受け入れ	2 人	2 人程度	A
中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。			

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与			
事業名	(2) 海外研究者の招聘			
事業概要	海外研究者の招聘と国際交流			
担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長 森田 稔
実績・成果	<p>海外から招聘 7名 海外へ派遣 21名 国際会議 9名</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外から招聘した研究者は、中国から2名、アメリカから2名、ロシアから1名、英国から1名、オランダから1名となった。中国からの2名は、近現代の洋画と紙の保存修復が専門であり、アメリカからの2名は国際シンポジウム発表者であった。 海外に派遣した職員のうち、2名は韓国国立中央博物館の依頼に応じて、特別展に協力するために派遣されたものであり、大きな国際交流に結びついた。 国際会議に延べ21人参加し、発表も行った。 			
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	海外の優れた研究者の招へい及び当館職員の海外博物館等への派遣を通じて国際的な学术交流が活発となり、当館の調査研究活動の活性化に寄与した。			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	海外からの研究者招聘	7人	5人程度	A
	海外への研究員の派遣	21人	1~2人	A
中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。			

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与			
事業名	(2) 海外研究者の招聘			
事業概要	国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。			
担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流協定を結んでいる 4 機関との間で以下の研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。 中国・上海博物館（研究員 3 名を 10 日間招聘。当館からは 3 名を 10 日間派遣） 中国国家博物館（研究員 2 名を 1 ヶ月間招聘） 中国・河南博物院（研究員 2 名を 1 ヶ月間招聘、当館から研究員 2 名を約 1 ヶ月間派遣） 韓国国立慶州博物館（研究員 2 名を各 1 ヶ月間招聘、当館から研究員 1 名を 3 週間派遣） 前述のうち中国国家博物館・信立祥氏には国際研究集会で研究発表を、慶州博物館・咸舜燮氏には 3 月に当館研究員を対象に講演を行っていただいた。 文化庁事業により研究者の招聘をし、国内各地で文化財調査、博物館等施設の視察を行っていただき、当館研究員との間で情報交換等を行った。 「外国人芸術家招へい事業」 中国・陝西歴史博物館長・成建正氏 「在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業」 サンフランシスコ・アジア美術館研究員 1 名 「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」 韓国・通度寺博物館から 1 名、中国・漢陽陵博物館から 1 名 			
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 中国・河南博物院との交流が本格的に開始され、将来の共同調査や展覧会開催に向けた実りある調査・情報交換を行うことができた。 その他 3 機関との交流、及び文化庁主催の各種招聘事業においても、諸外国の主要博物館との友好関係を強化し、当館の今後の調査研究・展示活動を充実させる上で有効な成果をあげることができた。 当館からの研究員派遣では、派遣先で文化財調査を行うことによって、仏教美術に関する当館の調査研究・展示活動を広くアジア的視野に立って展開する上で、貴重な情報の収集を行うことができた。 中国・隋唐時代の主要文物を多数所蔵する陝西歴史博物館の館長を招聘し、平成 22 年度に開催を予定している平城遷都 1300 年記念特別展に対する助力を得る上で、特に有意義な交流を行うことができた。 			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	海外の研究者の招聘	9 人	6 人程度	A
	職員の海外への派遣	6 人	6 人程度	A
中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。			

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与			
事業名	(2) 海外研究者の招聘			
事業概要	<p>① 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(5人程度)</p> <p>② 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(1人程度)</p> <p>③ 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流並びに調査を実施する。</p>			
担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 浅井浩文
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研究者の招へい 38人(目標5人程度) ・海外への研究員派遣 44人(目標1人程度) ①・文化庁アジア諸国博物館・美術館研究協力事業により、韓国学中央研究院、中国国家図書館、上海博物館の研究員を招へいした。 ・JICA草の根技術協力事業により、タイの研究員を3人招へいした。 ・第2回東アジア紙文化財修理シンポジウムに、中国の研究者21人、韓国の研究者6人の計27人を招へいした。 ②当館研究員1人を韓国国立公州博物館へ派遣した。 ③日中韓学術文化交流協定締結館会議を開催した。 (中国南京博物院、韓国国立公州博物館、韓国国立扶餘博物館、九州国立博物館) 			 <p>日中韓学術文化交流協定締結館会議の開催</p>
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁アジア諸国博物館・美術館研究協力事業により3名受け入れたほか、JICA草の根技術協力事業等、外部資金を活用して積極的に海外の研究者との交流を促進することができた。 ・国際シンポジウムの開催により、中国、韓国の研究者と専門的な意見交換を行うことができた。 ・当館研究員2人を韓国国立公州博物館に派遣し、研究交流を行うことができた。 ・日中韓学術文化交流協定締結館会議を開催し、学術文化交流協定を締結した韓国扶餘国立博物館、韓国公州国立博物館、中国南京博物院との間で連携推進の施策に関して協議することができた。 ・今後とも外部資金等を活用して、計画的に進めていきたい。 			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	海外の研究者招へい	38人	5人程度	A
	当館職員の海外博物館等への派遣	44人	1人程度	A
中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。			

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与			
事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・修理技術者への指導・助言 ・修理技術関係者を対象とした特別展覧会開催に合わせた研修会の開催 ・インターンシップ実習生の受入 			
担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	保存修理指導室長 山本英男
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2ヶ月に1回修理事業者と当館との定例会議を開催した。 ・当館にて開催の特別展覧会において修理技術関係者に対する研修会を実施した。 参加者 「藤原道長」展 45名 「狩野永徳」展 69名 「ヨーロッパ陶磁」展 31名 ・伝統保存技術者育成を目的としたインターンシップ制度により、実習生を受け入れた。 実習生 1名 (1大学) 			
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。 ・18年度から締結している国宝修理装飾師連盟、文化財修復大学院生インターンシップ協議会、加盟会社、加盟大学及び京都国立博物館との大学院生のインターンシップ実習生派遣に関する協定により、19年度は1名の実習生を修理工房にて受け入れ、研修を行った。協定の趣旨により、継続した事業として実施していくことが必要である。 			
定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	特別展覧会時の研修会参加者 インターンシップ実習生	のべ 145名 1名	— —	— —
中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して順調に成果を上げている。			

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施 (2/3 ページ目) 奈良国立博物館 (1/1 ページ目)

【書式A】

施設名 処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施
-----	---

事業概要	文化財保存修理所と協力し研修を開催及び実施する。
------	--------------------------

担当者	担当部課	学芸課保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長 鈴木喜博
-----	------	------------	-------	---------------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 当館文化財保存修理所で活躍してきた工房（美術院、文化財保存）の代表者が昨年と今年に続いて定年を迎えられるので、これまでの修理の経験に基づいて、若手技術者に対する研修会を兼ねた座談形式の講演会を企画し、あわせて一般の方々にも聴講可能な公開講座とした。 内訳 <ul style="list-style-type: none"> 8月4日「座談：文化財修理40年—絵画書跡—」 講師：田畔徳一前文化財保存代表取締役 参加者数80人 20年3月15日「座談：文化財修理40年—彫刻—」 講師：松永忠興美術院研究部長 参加者数76人 いずれも司会進行：鈴木喜博保存修理指導室長 	 <p>座談 文化財修理40年—絵画書跡—</p>
-------	---	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保存修理所は施設上一般者の見学が難しいので、地下回廊での写真パネル展示、修理報告(紀要)等で修理所活動の内容の公開につとめてきた。今年度は新たに修理技術者による一般講演会を実施した。 講演では若手技術者に研修の企画意図が伝わるように、保存修理指導室長との座談形式を採用し、かつ、演題の内容が技術者の言葉を通してわかりやすく語られるように努めた。 またスライドの使用(パワーポイント)にあたっては、修理技術者の負担を軽減するように、スライド作製および編集は、工房からの資料提供を得て、当館保存修理指導室が担当した。 一般の方々に理解しやすいようにできるだけ多くのスライド資料を収集する事に努めた。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 1703

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施
-----	---

事業概要	① 修理技術者等を対象とした研修会を開催する。 ② 修理技術者と協力し、研修会を開催する。
------	--

担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	①課長 本田光子(a, e) 保存修復室長 藤田励夫(b, c) 環境保全室長 今津節生(d) ②研究員 志賀智史
-----	------	--------	-------	--

実績・成果	<p>① a 6月2日, 8月4日, 10月6日, 12月1日, 20年2月24日、ミュージアム IPM 研究会第1~5回 参加者数延 300名</p> <p>b 9月8日東アジア紙文化財保存修復シンポジウム</p> <p>c 9月9日 紙文化財修理ワークショップ</p> <p>d 9月9日 文化財の科学的調査ワークショップ</p> <p>e10月30日 「美術工芸品の保存状態—カビ除去セミナー—」</p> <p>② a 8月20~24日 文化財保存修復研修(地元大学の文化財保存技術専攻学生4名対象)</p> <p>b 20年2月13日, 19日 古文書保存基礎講座(地元の博物館文化財関係者25名対象)</p>	 <p>古文書保存修復研修風景</p>
-------	---	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> 当館施設の機能や利点を活かし専門的な研修会をきめ細かく開催することができ、修理技術者や保存技術者の研鑽を深めることができた。 装幀修理技術者の協力による普及活動は、今年②aについては3回目、②bについては2回目をむかえ、紙文化財の保存については地域に定着した活動と、ナショナルセンターの役割を果たしている。 当館施設の機能や利点を活かし、装幀修理技術者の協力を得て、地域の博物館・文化財関係者への個別具体的な専門研修ができた。 文化財諸分野の保存修復活動について、地元博物館・文化財関係者へのさらなる研修プログラムが必要である。 文化財保存についての普及のためにも、学生研修の対象を専攻生以外広げる必要があるかもしれない。
--------------------------	---

定量的評価 中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	項目	実績	目標値	評価	
	研修会等開催回数	11回	—	—	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1801

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進
-----	---------------------

事業概要	公・私立の博物館等に対し展示等の充実に寄与するため平常展・特別展に収蔵品を貸与する。
------	--

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長 谷豊信
-----	------	---------	-------	----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。 ・貸与に当たっては、先方の施設および責任体制の確認、作品の保存状況の確認、先方の事前調査への対応、作品が輸送・展示に耐えるかの判定、希望が重複した場合の調整、引渡し時および返却時の状況確認を行った。 ・特色ある短期の貸与としては、富山の広田展と考古相互貸借事業による貸与をあげることができる。 ・長期貸与のなかで特筆すべきは、17年度以来継続している長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物貸与である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。 	 <p>「東京国立博物館広田不孤斎コレクション 茶の湯の名品」(富山市佐藤記念美術館)へ貸与</p>
-------	---	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の博物館等の特別展に指定品を含む当館の収蔵品および寄託品を貸与し、他館の特別展の充実に貢献した。 ・本年度は昨年度より貸与件数が減少した。しかし貸与先の数はほぼ同じであり、1会場当たりの貸与件数が減少したのである。展覧会経費が削減されているという声はしばしば聞くところであり、展覧会規模の縮小によるものではないかと推測する。 ・東京国立博物館収蔵の民族資料のうち約 2,000 件を九州国立博物館に管理換する方向で、九博と準備を行なったが、本年度は九博側の受け入れ態勢が整わず、実施にいたらなかった。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	貸与件数	1,302 件	—	—
	うち国内の貸与件数	1,118 件	1,000 件	A
	うち長崎歴史文化博物館への貸与	80 件	80 件	A
	うち韓国国立中央博物館平常展への貸与	95 件	95 件	A
	うち海外の貸与件数	184 件	60 件	A
	貸与先施設数	137 件	—	—
	九州国立博物館への管理替	1,086 件	約 2,000 件	C

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 処理番号

中項目

事業名

事業概要

担当者

実績・成果

- ・60 機関に対し 171 件の貸与を行った。(うち海外 1 機関 3 件)
 (館蔵品についての貸与件数)
- ・特別観覧件数 6,786 件

定性的評価
 (目標に対する成果の達成状況)

- ・公私立博物館、美術館からの要請により、当館の展示計画との調整を行ったうえで、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。
- ・「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net) を介したデジタル画像の提供事業を継続的に行っている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	貸与件数	171 件	160 件	A
	うち海外への貸与件数	3 件	—	—

中期計画期間における進捗状況

【書式A】

施設名

処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進
-----	---------------------

事業概要	収蔵品の保存状態にも留意しつつも、館外からの要望に真剣に耳を傾けつつその意義を考え、可能なかぎりその要望に応え、文化財の出品に協力し、普及をはかる。
------	--

担当者	担当部課	学芸課列品室	事業責任者	列品室長 岩田茂樹
-----	------	--------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品・寄託品の貸出は、展覧会にして 37 件、展示会場にして 34 館（巡回展があるため）、作品件数にして 137 件である。 貸与先内訳 外国 2 館、国立 9 館、公立 22 館、私立 4 館 貸与文化財内訳 館蔵品 87 件（絵画 22 件、彫刻 4 件、書跡 5 件、工芸 8 件、考古 48 件） （うち海外への貸与 2 件） 寄託品 50 件（絵画 25 件、彫刻 8 件、書跡 6 件、工芸 2 件、考古 9 件） （うち海外への貸与 2 件） 	 <p>「毘沙門天立像」 八幡市立松花堂美術館 「石清水八幡宮展」に貸与</p>
-------	--	---

定性的評価 （目標に対する成果の達成状況）	・展覧会の意義と貸出希望のあった作品の保存状態を十分に吟味しつつ、慎重に検討した結果、目標を上回ることができ、公私立博物館・美術館における公開の機会拡大に貢献した。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	貸与件数	137 件	100 件	A
	うち海外への貸与件数	4 件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 九州国立博物館 処理番号 1804

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進
-----	---------------------

事業概要	収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。
------	-----------------------

担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員 市元墨
-----	------	------	-------	---------

実績・成果	<p>国内 28 機関、海外 5 機関に、東京国立博物館からの長期管理換品を含む所蔵品、借用品などを貸与した。島根県立古代出雲歴史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、MOA、五島美術館など、九州沖縄管内に留まらず、各地の機関からの借用要請に協力した。</p> <p>なかでも、アメリカ合衆国内のフィラデルフィア美術館における池大雅展（重要文化財「陸奥奇勝図巻」）、フリーア美術館における西暦 1600 年を巡る特別展（唐船南蛮船図屏風）、ポルトガル・ポルトのソアレス・ドス・レイス美術館における日本のやきもの展（重要文化財「緑釉四足壺」）や大韓民国の国立済州博物館における琉球王国展（進貢船模型）や琉球風俗図などは、それぞれの展覧会の核となるものとして出品を強く要請された。</p>		<p>(貸与) (フリーア美術館) 南蛮図屏風(唐船南蛮船図屏風のうち、当館蔵)</p>
-------	---	---	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・2005 年の開館以来、北は北海道から南は沖縄にいたる各地の機関などからの長期管理換品、借用品などを大量にお預かりしている九州国立博物館は、できるだけ他館の事業に協力することにしている。 ・アメリカ合衆国・大韓民国・ポルトガルの代表的な機関における特別展への出品は、当館の国際的認知度を上げるのに大いに役だった。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	貸与件数	127 件	—	—
	うち海外への貸与件数	18 件	—	—

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 東京国立博物館

処理番号 1901

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言
-----	----------------------

事業概要	国内の公私立博物館・美術館等、及び海外の美術館・博物館等が開催する展覧会に対する援助・助言等を行う。また、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業に協力し、調査や助言を行う。
------	--

担当者	担当部課	文化財部	事業責任者	文化財部長 島谷弘幸
-----	------	------	-------	------------

実績・成果	文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力 (48 件) 文化財の展示にかかる指導助言 (12 件) 講演会やセミナー等における講演等での協力 (39 件) 作品の展示・保存環境についての調査・指導 (25 件)
-------	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内・海外の博物館・美術館からの要望に応じ、展覧会での展示方法や作品調査にかかる指導・助言を行い、また講演会等における発表や講師での協力をした。 ・これにより各機関の展示企画を充実させ、調査研究活動に貢献するとともに、日本文化の紹介を通じて国際交流の発展にも寄与した。
--------------------------	--

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	公私立博物館・美術館への援助・助言	124 件	40 件	A

中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。
----------------	---------------

【書式A】

施設名 京都国立博物館

処理番号 1902

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与				
事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言				
事業概要	公私立博物館・美術館等が開催する展覧会の企画・展示等に協力する。				
担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長 森田 稔	
実績・成果	<p>文化財の展示、修理にかかる指導助言 (11 件) 講演会、セミナー等における講演等での協力 (9 件) 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力 (29 件) 文化財の調査にかかる指導助言 (32 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県立近代美術館における京都国立博物館所蔵「国宝との出会い展」(仮称)の企画に協力した。 ・宮内庁所蔵の「春日権現験記絵」の修理に関する指導・助言を行った。 ・文化庁のセミナーや放送大学の番組制作に協力するとともに、京都市については生涯学習振興財団の講座の講師を派遣し、協力を行った。 ・京都府や滋賀県の教育委員会や文化財保存修復学会が行う審議会や委員会に出席し、助言などを行った。 ・文化庁や宮内庁をはじめ、大学の科学研究費による調査に参加し、文化財の調査にかかる指導助言を行った。 				
定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	多くの機関から要望のあった講演会講師や展示・修理等についての指導助言を積極的に行ったことで、各機関とのつながりが深まった。今後も、各機関の要望に応じ、積極的に協力していく。				
定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	公私立博物館・美術館等への援助・助言	81 件	12 件	A	
中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。				

【書式A】

施設名

処理番号

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言
-----	----------------------

事業概要	国内の公私立博物館・美術館等、及び海外の美術館・博物館等が開催する展覧会に対する援助・助言等を行う。「鑑真和上展」「石山寺展」の企画・展示等の協力を行う。
------	---

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生
-----	------	--------	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「国宝 鑑真和上展」(福岡市博物館)及び「石山寺の美 観音・紫式部・源氏物語」(新潟三越美術特別会場、石山寺・新潟日報社主催)において学術協力をを行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力をを行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。 ・海外展「観音菩薩」(スイス・リートベルク美術館、19年2月18日～4月9日)を日本側主催者として開催し、今年度は現地に2名の研究員を派遣して撤収作業を指導し、国内での作品返却までの作業を完了した。 ・文化庁主催海外展「悟りの世界」(米国・ジャパンソサエティギャラリー、19年3月28日～6月17日)の展示・撤収指導に各1名の研究員を派遣した。 ・20年度にドイツ・国立芸術展覧会ホールで行われる「醍醐寺展」(日本側の主催者は醍醐寺・東京国立博物館・当館、20年4月25日～8月24日)の準備を共催者とともに、国内での集荷作業までを完了した。
-------	---

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・「鑑真和上展」「石山寺展」への協力を通して、関西地区所在の仏教関連文化財の他地域における紹介・普及に、多大な貢献を果たすことができた。 ・両展への協力を通して、特別展等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である唐招提寺及び石山寺との信頼関係を、より強固なものとすることができた。 ・日本美術に関する海外展に主催者・協力者として積極的に関与し、海外における日本の文化財の公開及び日本文化の紹介・普及に多大な貢献を果たすことができた。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	公私立博物館・美術館等への援助・助言	5件	5件	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------

【書式A】

施設名 九州国立博物館

処理番号 1904

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
-----	---

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言
-----	----------------------

事業概要	公私立博物館・美術館等に対する指導・助言等を行う。
------	---------------------------

担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 浅井浩文
-----	------	-----	-------	-----------

実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・公私立博物館及び教育委員会等で開催された研究集会・講演会において指導・助言を行った。(38件) ・当館研究員が日頃の研究や成果に基づき指導・助言行い目標を大幅に上回る件数を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・近代遺産保存に関する講師（佐賀市歴史民俗館） ・考古学に関する講演の講師（広島大学） ・「紙の文化財」保存修復コースにおける講師（東京文化財研究所） ・勝負砂古墳発掘の技術に関する指導（岡山大学） ・大涅槃像修復に関する指導（佐賀市教育委員会） ・松浦市海底遺跡調査に関する指導（長崎県松浦市教育委員会） ・在外日本古美術品の修復に関する指導（東京文化財研究所） 	 <p>当館の概要に関する説明</p>
-------	---	--

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・九州の各地方公共団体（教育委員会等）はもとより他県の要請にも応じ、文化財の科学的分析調査や修復指導等目標を超える実績を上げることができた。今後も職員の専門性や業務量を勘案しつつ協力していくよう努める。
--------------------------	---

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	公私立博物館・美術館等への援助・助言件数	38件	12件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。
----------------	-----------------------